

【活動目的】

・当初のねらい

ノートにひらがな（日記）を書くことで、相手に思いを伝えることができることを理解し、伝わったことの楽しさやうれしさを感じることができるようにする。まわりの人とコミュニケーションをとることは楽しいと感じる機会を多く持つことで自己肯定感が高まりいろいろな場面で自分からコンタクトをとることができるようになればいいと思う。

書きたいことがあるのにみんなが読めるような形にしないと伝わらないこと、また、ひらがなを書けば相手に読んでもらえることを理解させれば自分からノートに書くと考えた。ひらがなは思いを伝えるためのツールであることを理解できれば、「言葉を書く」イメージができると考えた。

- ・実施期間：国語の時間に、毎日、日記を書く。平成25年4月～平成26年3月
- ・実施者：山田国枝
- ・実施者と対象児の関係：学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

小学校に入学して以来、毎日、ひらがなを書くことを指導してきた。なぐり書きのような段階から、少しずつ、なぞり書きをするようになった。しかし、自分からひらがなを書くことは、なかなかできなかった。

点々でノートや黒板に「ぼくは、きのう～ました。」と声に出しながら得意気に書いている姿を見ることはよくあった。大人のまねをしていると保護者からコメントがあった。姿はまねができて内容も伴ってはいない。

日記は、「書いて、書いて。」と毎日、せがんでいた。出来事を伝えたいという気持ちは、とても強かった。なぞった日記は、教師に「読んで、読んで。」とせがんだが自分から読むことはなかった。教師が読むのを聞き、とても満足し楽しんでいた。

・活動の具体的内容

ステージ1：話したいことはいっぱいあるよ



書いたけど、読んでもらえないな。



点々では、伝わらないよ。



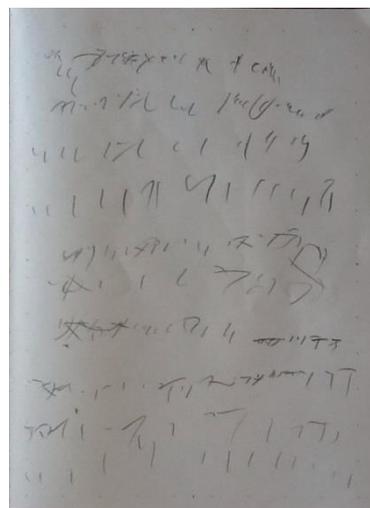
そうか～



ノートに書いたら、読んでごらん。

もう一度、聞き返すことができるよ。

(App カメレコを使う)





読んだ声が、聞こえるよ。

わかってもらえてうれしいな。



伝えたい気持ちはとっても強いんだな。

(実際の様子)



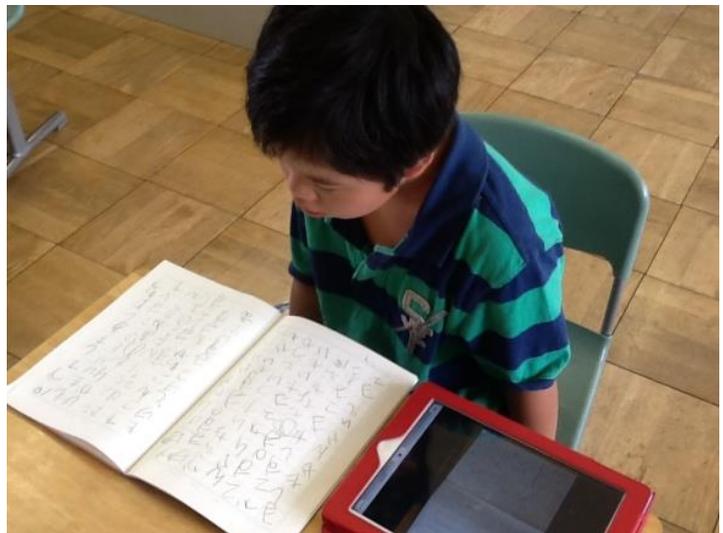
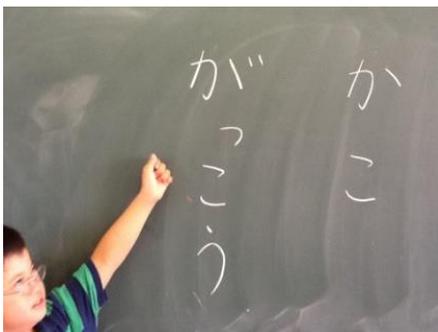
iPad のカメレコのアプリを利用した。写真を撮ると、その画面に録音機能が
ついている。スイッチを押すと流れる声が気に入り、教師が読んだ日記を何度
も聞き返していた。そのうちに、対象児が、自分の書いた（なぞった）日記を
読んで、うれしそうに、何度も聞き返していた。

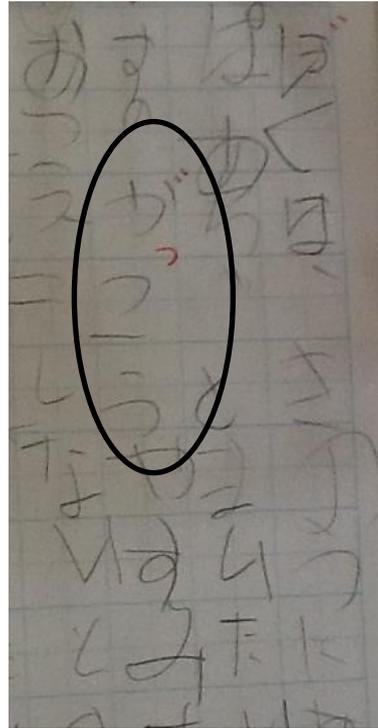
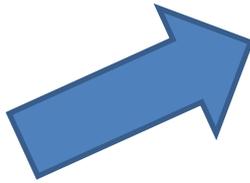
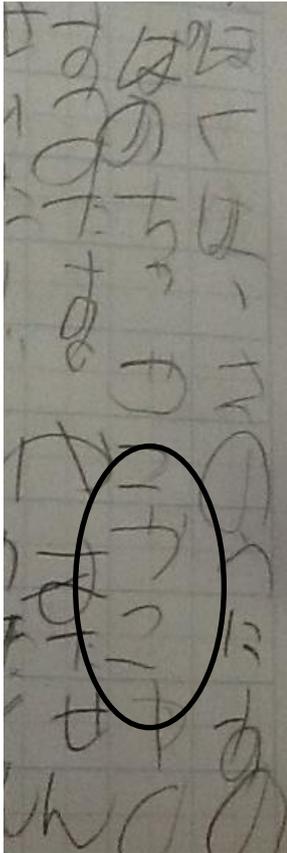
日記を書くと、自分で読むというパターンが気に入り、毎日繰り返すことと
なった。カメレコのアプリが気に入っているので、教師に日記を書いてとせがんだ時に、「自分
でノートに日記を書いたら、カメレコを使える」ということを約束したら、自分から進んでひら
がなをノートに書くようになった。ひらがなを書くことに、抵抗があったが、言葉を声に出して、
言葉をつぶやきながら、一生懸命にノートにひらがなを書くようになった。

誤字はたいへん多かったが、そのことは指摘せず、ノート1ページいっぱい書いたことをほ
めた。書いた後に自分の日記を読み、録音されたものを聞き返してとても満足していた。教師が
録音の言葉を聞き、ノートに書いた日記と見比べて声に出して読んで解説していく時も、わかっ
てもらえた喜びでいっぱいであった。

次第に、自分から、伝えたい内容を日記に書くようになった。日記を書くときは、集中して脇
目もふらず一心不乱に書いていた。書いている間は、声かけなどは一切していない。書いたあと
に、読む姿は、とても誇らしげである。内容も、少しずつ正確なものになっていった。

例えば、がっこう（学校）の表記については、「かこ」と書いていたものが、「かこう」と変化
している。「かこ」の読みを App カメレ
コで聞くことで、「がっこう」であるこ
とに教師が気付いたので、正しい表記を
示すことができた。





ステージ2：伝えたいことを、文に書きたいな



(自分が書いたものを読み返そうとすると、読めないから)書いてよ。

(読めないから)読んでよ。



(自分の書いたノートを読みながら)違うな～



(声を出して書いているときに字をそっと教える)

(App 黒板)



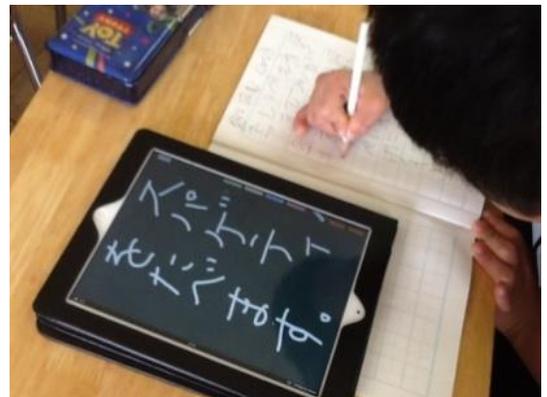
黒板をみながら、書くことができるようになったよ。



わからないときは、聞けばいいんだな。



書かせようとした文字は書かないけど、書きたい文字は書くのだな。



(実際の様子)

自分から書くという目的は達成したが、表記はたいへん間違いが多い。書いてある内容と読んでいる内容をすり合わせていくと、発音が不明瞭であることが間違っ表記へとつながっていると感じた。

日記として、自分からノートにひらがなを書くことはとても自信をもってやっていた。

「書きたい」「やりたい」「自分でやる」という言葉をよく言うようになった。

(1) 黒板 App を使って



日記を書くときに、わからない文字や文章を iPad の黒板を使って示すことをした。すぐに対応することができるので、ノートに書く鉛筆を休めることなく、文を書いていくことができる。ノートに教師が直接書いたものをなぞるより、自分で書いたという満足感を感じることができたようだ。

(2) おえかキロク App を使って



文字の不確かなものは、おえかキロク App を使い、正しい文字を示した。書いたものを何度も再生して試みることができるので、どの文字を間違えたのか、書き順など、どこに注意したらいいのかを理解することができた。自分の書いた文字の違いに気が付き、自ら消しゴムを使って書き直す姿も見られた。



(3) 漢字 App を使って



漢字のなぞり書きができ間違えても何度でも楽しく取り組むことができる漢字 App と数図ブロックを使って、毎日、漢字を 10 個学習することにした。毎日なぞり書きをすることで、なぞって書くことには抵抗感がなくなり、自分から喜んで学習することができた。また、ほかの教材を使った漢字学習をするときも、興味をもって取り組むことができた。



(4) カレンダーApp を使って



毎日の日記をカレンダーに記録でき、また、音声でも記録することができる。日にちや曜日の概念ももつことができるようになった。また、以前に書いた日記を聞き直しては振り返ることもできた。興味深く、録音された記録を聞いていた。

ステージ3：何度でも読み返すことができるからうれしいな



ひらがなを間違えないで書くと、読み返すことができるね。



ママも、読んでわかるから喜んでるね。

<保護者からのコメントの変化>

日記を書くようになってうれしいが、先生のコメントがないと何が書いてあるか理解するのがむずかしかった。



1・2学期は、いつも内容がほとんど同じであったが、3学期になってから、書いてある内容も、家で見たビデオのこととか、今日の夕飯の献立など話題が多方面になってきた。書くだけでなく、わかりやすく読んでいるのを聞いて、学習の成果が感じられた。話をしている内容が正確に伝わってきてうれしい。

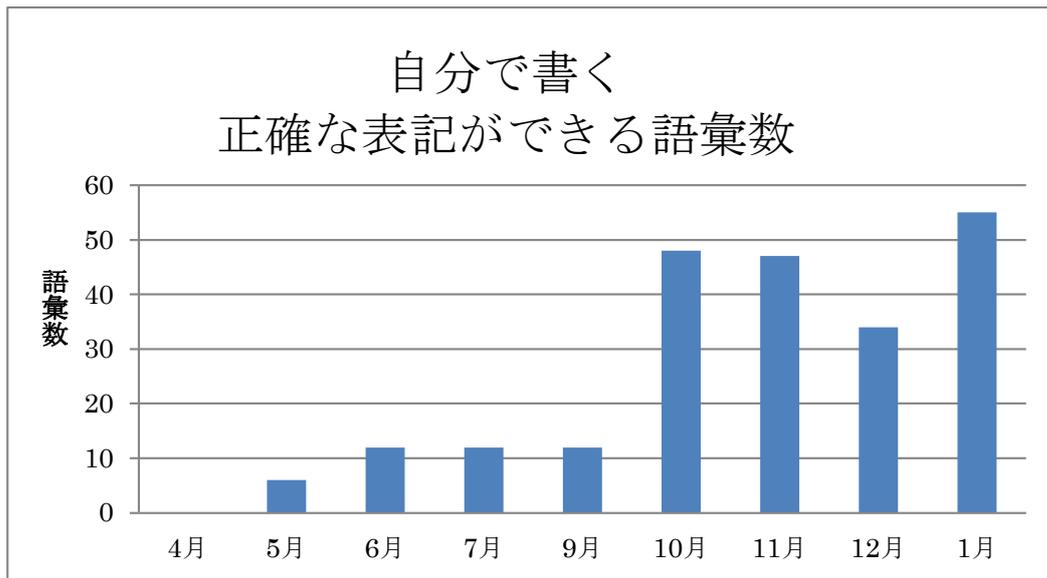
・対象児の事後の変化

書きたい思いがあるのに加え、内容を正確に書きたい気持ちがでてきたので、表記の仕方を自分から教師に聞く機会が多くなった。書かせようと思っても、まったく書かなかった対象児が、自分から正しい表記をしたいから、「教えて」と言うようになった。さらに、ひらがなだけでなく、カタカナや漢字を交えて教えても抵抗なく書くこともできるようになった。

また、対象児が伝えたいことが教師に伝わらない時などは、Safari や Youtube で内容を検索して見せ、それが自分の伝えたいことだったときは、伝わった喜びでいっぱいであった。その場ですぐに調べることができる利点を十分に活用することができた。

書きたい内容でないと書かないのは、「動機がないと動かない」という原点を、対象児から改めて教えられた。

自分で書く正確な表記ができる語彙数をグラフにしてみた。



4月 : 自分から書くひらがなは、なかった。

5月～9月 : 自分からひらがなを書くようになった。

毎日書く文字は、ほとんど同じで、内容もいつもいっしょであった。

10月～1月 : 語彙数が飛躍的に増えてきた。内容も、多方面になってきた。

・その他のエピソード

(1) できたよタイマーAppを使って



対象児は、生活の場で、時間になっても次の行動に移れないことが多かった。

自分で時間の管理ができる「できたよタイマーApp」を使ってみることにした。

体育の時に体操服に着替えることもいやがり、1時間教師との押し問答になることもあった。できたら、自分からスイッチを押し、「やったね」としゃべってくれるこのタイマーを使うことにより、自分から進んで着替えができるようになった。

また、本校では、週に一回、フッ化物洗口の日がある。対象児は、ブクブクを1分間するのをなかなかやらなかった。しかし、このAppを使うことにより、1分間フッ化物洗口をすることができた。

生活の場で、教師に促されてもできないことが、Appを使うことにより、自分でやったという達成感を感じて行動できるようになった。



(2) モジルート App を使って



対象児は、ひらがなや漢字、数字をなぞることは、1年生のころからやってきた。だから、敢えてなぞるアプリの必要性を感じてはいなかった。対象児が、自分からモジルートを選び、文字の線を引く姿が見られた。ゆっくりとなぞるので、鉛筆を使う時の速度より、書く軌跡を目で追うことができたようだ。使い始めて数回で、数字をととても丁寧に書くことができるようになった。



「6」と「9」をいつも間違えて書いていたが、自分で間違いに気づき直すこともあった。



1月28日 (火)



2月13日 (木)